

## キャップ制導入に対する抗議

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年3月13日）

キャップ制の導入には断固として反対します。国際高等教育院の設立に始まり、一般教養科目でのキャップ制導入、GPA制度の導入及び履修取り消し期間の設置、また吉田寮に対する弾圧や不可解な理由に基づく立て看板の撤去、折田先生像の撤去など枚挙に暇がありません。昨今の当局の姿勢を見ていると学生をできるだけ監視下に置きたいという意向が明らかです。これは本学が長らく標榜してきた自由の学風という方針に反するものであり、何としても容認するわけにはいきません。とりわけ専門科目でのキャップ制導入は学生が自由に学業を営む上で大きな障壁となります。四回生後期に卒業研究を行う上でもそうであり、また近年早期化の傾向が見られる就職活動についても同様です。自由の学風を根本から覆すキャップ制導入に強く反対するとともに、国からの圧力が働いているような事実があればそれには断固として反対していただきたく存じます。京都大学において自由を守ることは何事にも代えがたい価値を持つのです。

【回答】（回答日：2020年4月8日）

（教育推進・学生支援部 教務企画課）

CAP 制の導入の目的は、学生を監視下に置くことではありません。CAP 制は、学生が各年次にわたってバランスよく科目を履修することによって、必要な時間外学修時間を確保し、学修を深めることを目的にした制度です。

また、CAP 制の導入により、就職活動や卒業研究に影響を及ぼすということですが、回生が上がるごとに履修登録数が少なくなっていることは学生の履修登録の状況から明らかです。